



SDGs TS report 2024

クルマづくりのITに、
もっとできることを。

緻密かつ柔軟であることが求められるクルマづくり。
そのなかで私たちが生み出したITソリューションは、
きっと、さまざまな分野に活かすことができる。



SDGs TS report 2024

contents

- ① レポート概要・会社概要
- ② 基本理念
- ③ CSO (Chief Sustainability Officer) メッセージ
- ④ サステナビリティビジョン・社外からの評価
- ⑤ 従業員データ
- ⑥ 主なSDGsに関する取り組み
- ⑦ 事業を通じたSDGsへの貢献
- ⑧ 白川郷茅場保全活動
- ⑨ IT機器リユース/リサイクル
- ⑩ わたしのミライ KAIZENアワード 2023
- ⑪ Vision2030
- ⑫ カーボンニュートラルへの取り組み

● 編集方針

トヨタシステムズの取り組みをさまざまなステークホルダーの方々へわかりやすくお伝えすることを目的に、本レポートを発行する運びとなりました。本レポートは2023年度における当社の取り組みやトピックスを中心にコンパクトにまとめて報告しています。

● 報告期間

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の活動を中心に報告していますが、それ以外の期間も一部含みます。

● 想定読者

お客様、お取引先、従業員、株主、地域社会、行政などのステークホルダーのみなさまを読者として想定しています。

● 将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、トヨタシステムズの過去と現在の事実だけではなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これら予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果が本冊子に記載した予測・予想・計画とは異なるものとなる可能性もありますが、トヨタシステムズは、このような事態への責任を負いません。読者のみなさまには、以上をご承知いただくようお願い申しあげます。

● 会社概要

社 名 株式会社トヨタシステムズ

名古屋本社 〒450-6332
名古屋市中村区名駅1-1-1
JPタワー名古屋32F

東京本社 〒108-0075
東京都港区港南1-8-23
Shinagawa HEART14F

代 表 者 代表取締役社長 北沢宏明

設 立 2019年1月1日

資 本 金 54.5億円

売 上 1,932億円(2023年度実績)

出 資 トヨタ自動車(株)100%出資

● 事業所一覧

国 内 名古屋本社 / 東京本社 /
栄オフィス / ミッドランドオフィス/
名駅オフィス / 高岳オフィス /
豊田オフィス / 大阪営業所 /
九州営業所 / 東北営業所

海 外 アジア
TOYOTA TSUSHO SYSTEMS SINGAPORE PTE. LTD. / TOYOTA TSUSHO SYSTEMS(THAILAND)Co.,Ltd. /
TOYOTA TSUSHO SYSTEMS INDIA Pvt.Ltd. / PT.TOYOTA TSUSHO SYSTEMS INDONESIA /
TOYOTA TSUSHO SYSTEMS CHINA

欧州
Toyota Tsusho Systems EUROPE GmbH

米州
TOYOTA TSUSHO SYSTEMS US, Inc.

● 基本理念

トヨタシステムズはトヨタ自動車(株)と基本理念を共有しております。

トヨタ自動車(株)と同じく企業活動を通じて、社会・地球の持続的な発展に貢献することをめざしています。

● トヨタ基本理念

- 1 内外の法およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、国際社会から信頼される企業市民をめざす
- 2 各国、各地域の文化、慣習を尊重し、地域に根ざした企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する
- 3 クリーンで安全な商品の提供を使命とし、あらゆる企業活動を通じて、住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組む
- 4 様々な分野での最先端技術の研究と開発に努め、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる商品・サービスを提供する
- 5 労使相互信頼・責任を基本に、個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる
- 6 グローバルで革新的な経営により、社会との調和ある成長をめざす
- 7 開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する

● 経営ビジョン

- 1 期待を超えるITソリューション、魅力あるサービスの提供によってトヨタおよび関連会社のビジネス変革に貢献する。
- 2 先端技術への飽くなきチャレンジと圧倒的な生産性を実現し続け、お客様に最先端・高効率なシステムを提供する。
- 3 高い倫理観とオープンでフェアな事業活動を通じ、すべてのステークホルダーに笑顔と満足をお届けし、SDGsの目標達成と持続可能な社会の実現に貢献する。
- 4 従業員が誇りとやりがいを持ち、安全・健康で安心して働くことができる環境を整えるとともに、多様な人材が集まり、活躍できる仕組み・機会を提供する。

トヨタシステムズは、
ステークホルダーの満足と価値創造で、
世界のリーディングITカンパニーを目指します。



トヨタシステムズは2024年1月に設立5周年を迎え、新たなステージに向けてスタートをきることができました。これまで当社を支えてくださいました関係者のみなさまに、心から感謝申し上げます。

さて、当社はITのチカラでトヨタグループのビジネス変革を支え、自動車業界により多くの価値を提供できる企業となれるよう、新たに「Vision2030」を策定いたしました。

今後、自動車業界はモビリティ産業へとフルモデルチェンジしていきます。その中で当社は「最適解を、ITで。」を設立当初からコンセプトに掲げ、この先の未来を見据え、IT技術を武器にして技術の研鑽を重ねてきました。トヨタグループのさらなる成長の為に、またモビリティ社会の創生、さらにはその先にある新たな価値創造に向けて、当社は一歩踏み出します。

事業の成長と共にSDGsへの貢献も重要な経営課題と捉え取り組んできました。踏切での事故を減らすため、画像分析技術を活用したシステム開発に鉄道会社と取り組み、安心安全な街づくりに貢献をしております。また、社会貢献活動としては岐阜県にある白川郷の茅場保全活動に従業員とご家族で参加しました。人手不足で活用できていない茅場の整備を行い、世界遺産である白川郷合掌造の存続の継承に寄与できるよう、これからも取り組んでいきたいと考えています。

私たちは、自分たちで未来をつくるという強い想いを持ち、事業を通じて様々な社会課題に取り組み、SDGs達成に貢献していく所存です。引き続きみなさまのご支援とご協力をお願いいたします。

管理本部 本部長 兼 CSO

酒井 誠二

サステナビリティビジョン

トヨタシステムズは、事業成長を行いながら、国際社会共通の目標であるSDGsの達成にも貢献することを目指しています。具体的には「製品・サービス」「最先端技術」「ダイバーシティ」の3つのテーマに重点を置き、活動を推進しています。



社外からの評価

健康経営優良法人ホワイト500



会社発足から5年連続で、健康経営優良企業に送られるホワイト500に認定。

スポーツエールカンパニー



従業員の健康増進のため、スポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業を認定する制度。会社発足から5年連続で認定。

くるみんマーク認定



厚生労働省が「次世代育成支援対策推進法」に基づく基準適合一般事業主（子育てサポート企業）として認定した企業である証。

愛知県ファミリーフレンドリー企業表彰



法定基準以上の育児・介護に関する制度や短時間勤務制度を有し、かつ多くの利用実績のある企業が表彰。

名古屋市子育て支援企業認定



女性がいきいきと活躍できるような取り組みをしている企業を認定し、その中でも特に優れた取り組みをしている企業を表彰。

花の王国あいちサポート企業認定



子育てにやさしい企業活動を行っている企業を表彰。2020年度優秀賞受賞。

テレワーク先駆者百選



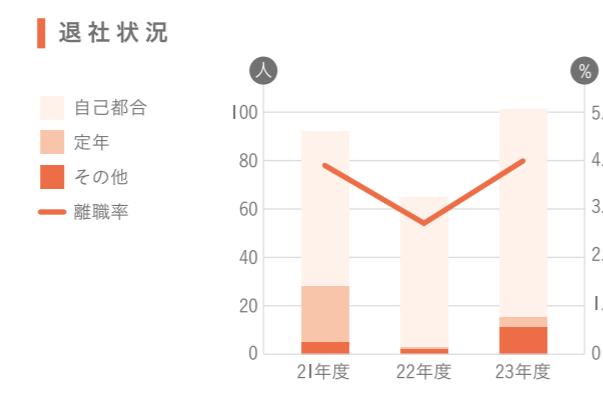
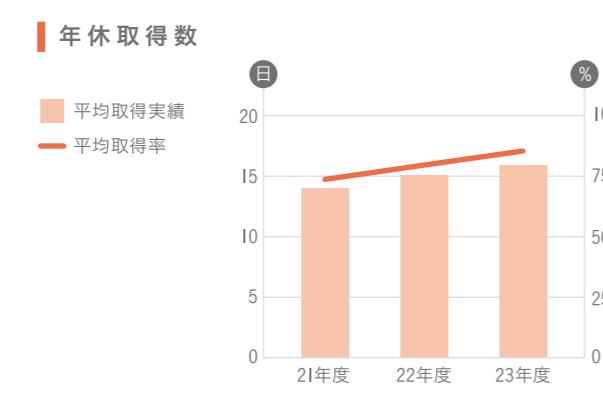
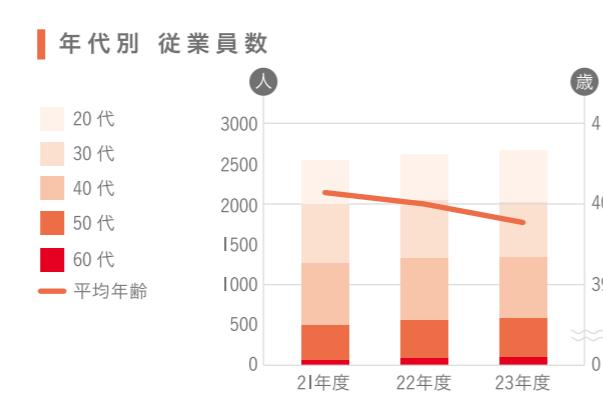
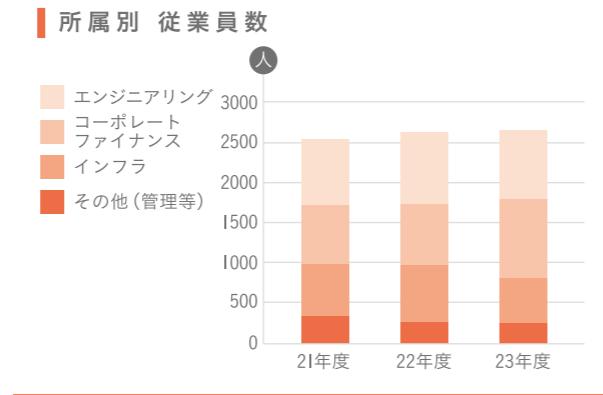
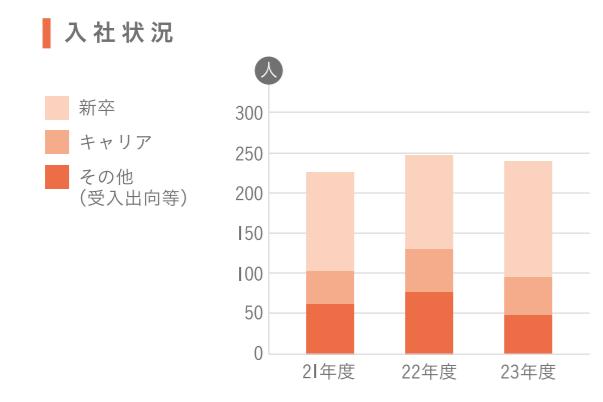
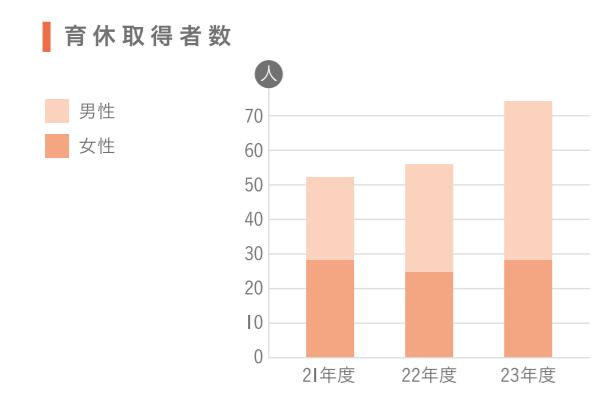
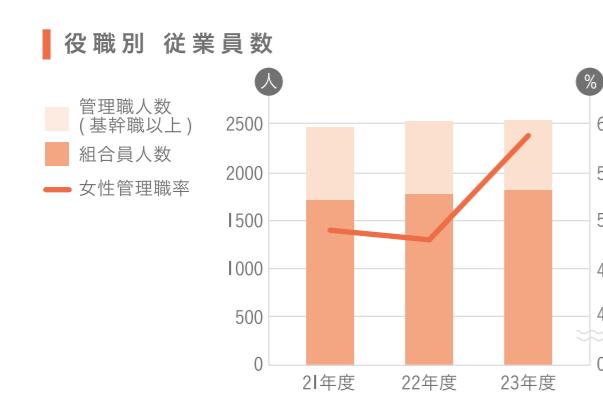
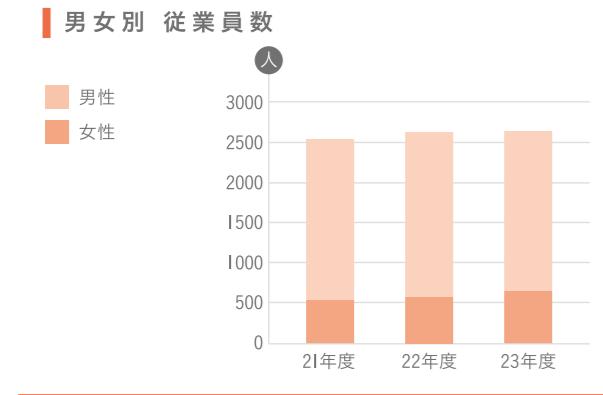
テレワークの導入・活用を進めている企業・団体を「テレワーク先駆者」と認定し、その中から十分な実績を持つ団体等を「テレワーク先駆者百選」として公表。

なごやSDGsグリーンパートナーズエコ事業所認定

事業活動においてSDGsの実現に向け取り組む事業所を、名古屋市が「なごやSDGsグリーンパートナーズ」として登録・認定し、自主的な取り組みを支援するもの。栄オフィスは最上位認定である認定優良エコ事業所認定を取得。

あいち夢はぐくみサポーター

県内の公立の小学校・中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒の教育活動を支援する県内の事業所や団体を認証・登録し、事業所等の社会貢献活動を広く広報するとともに、児童生徒のキャリア教育の充実・活性化を図る。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月の国連サミットにて世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

SDGs目標

トヨタシステムズ取り組み内容



障がい者雇用、リユースPC作業を障がい者施設へ委託、ノベルティを障がい者施設へ発注、勤務多様化(在宅・フレックス勤務制度、育児・介護休暇制度)、3DV・永年勤続休暇制度



▶ 災害備蓄品提供、災害支援金寄付、フェアトレード製品導入



▶ システム開発による自動車産業への貢献、アジャイル開発推進



▶ 災害備蓄品提供



▶ LGBTQ+従業員教育、服装のカジュアル化、フェアトレード製品導入、発達障害啓蒙活動



▶ 交通事故発生抑止、ホワイト500認定、健康イベント開催、勤務多様化(在宅・フレックス勤務制度、育児・介護休暇制度)、3DV・永年勤続休暇制度、フードドライブ、アルバルク東京ユースチーム支援、エコドライブ&スマートムーブ推進活動



▶ BCP策定、BCM対策活動、白川郷茅場保全



▶ リユースPC寄贈、障がい者・児童福祉施設へのPC・プログラミング教育、地域の中学生に職場体験実施、全国高専プログラミングコンテスト協賛、スポーツ活動協賛、学生論文コンテスト開催、アルバルク東京ユースチーム支援



▶ 社内照明LED化、業務用車にハイブリッド車採用、クールビズ・ウォームビズ、COOL CHOICE賛同



▶ LGBTQ+従業員教育、服装のカジュアル化



▶ ペーパーレス、白川郷茅場保全



▶ 海岸清掃活動



▶ コンプライアンス社内啓蒙、適正取引、フェアトレード製品導入



▶ トヨタ自動車(株)およびトヨタグループとのパートナーシップ、アルバルク東京ユースチーム支援



01

事業企画推進部

インパクトレンチ訓練者補助ツールの開発

水野 由裕



02

園田 祐太 / 三浦 与実

データ活用推進部

データサイエンティスト育成プログラム



作業員の身体的負荷低減を目指す。

安全や健康をテーマに悩みごとをヒアリングしていたところ、インパクトレンチを用いた車の組み立て作業で、作業員の身体的負荷が大きいことを知りました。特に新人や派遣社員などの経験の浅い方々にとって、それがより顕著な状況でした。そこで作業員の身体的負荷を低減し、より良い作業環境の整備につなげるべく、インパクトレンチを用いた作業の補助ツールを開発することになりました。

課題解決のために、専門外のハードウェア開発にも挑戦。

具体的には、インパクトレンチを使用する際に必要以上に力が入ってしまわないように、力加減を感じるセンサーと警告ランプを一体化させた、補助ツールを開発しました。これまでITの力で課題解決をすることが私たちの使命でしたが、今回は専門外だったハードウェア開発とITをかけあわせるという、新たな挑戦でした。情報収集や制作時の試行錯誤は大変でしたが、試作品の完成時には、お客様から「まさしく求めていたもの」と嬉しい言葉をいただきました。

補助ツールを普及させることで、身体的負荷を減らしたい。

現在はある工場で試験的に導入されていますが、そこでの評価がよければ別の工場や会社に横展開することを想定しています。たくさんの作業員の方に使ってもらうことで、身体的負荷を減らしたいです。また、これまで口頭で感覚のまま教えていたノウハウを、見える化して共有できるというメリットもありました。これらは作業員にとってもいいことですし、会社にとっても貴重な人材に長期的に働いてもらえるようになる取り組みなので、とても意義のあるプロジェクトです。

データサイエンスのスキルを、すべての従業員に。

デジタル化によって、あらゆるデータを収集・活用できる時代になった現在。蓄積された膨大なデータをビジネスに活かすためには、データサイエンスのスキルを身につける必要があります。そこで、従業員一人ひとりがデータを適切に扱えるようになるために、データサイエンティスト育成プログラムを企画・運営しています。ITソリューション企業として、トヨタ自動車(株)やトヨタグループのDXを先導するための施策の一つとして取り組んでいます。

受講者のレベルに合わせた、2つのコースを用意。

プログラムでは、データリテラシーと機械学習の基礎知識の定着を図るスキル底上げ型コースと、身につけたスキルの実践力向上を図る成果創出型コースという、受講者のレベルに合わせた2つのコースを用意。データ分析を実際の業務で実践するには、データサイエンスの知識だけでは不十分です。現場でどのようなデータが扱われていて、どんな課題があるのか、などの業務理解も必要となります。若手の受講生は、先輩やお客様を巻き込んで課題に取り組むことで、普段の業務では見えないところまで視野を広げることにも繋がっています。

データサイエンス教育で、柔軟な対応力をもつ人材を。

機械学習やAIといったテクノロジーは、目まぐるしいスピードで進化しています。最新のテクノロジーを学びつづけることは大変ですが、その基礎となる知識が大きく変化することはありません。プログラムを通じてデータサイエンスの基礎をしっかりと身につけてもらうことで、最新のテクノロジーに柔軟に対応でき、どのようにお客様の課題解決に役立てられるのかを考えられる人材を育成していきます。

03



鈴木 寛人

CG事業推進部

**紙カタログからスマートカタログへの移行に
3DCGデータを活用**

紙カタログ廃止に伴い、スマートカタログ開発に着手。

トヨタ自動車(株)が2025年1月に紙カタログを廃止し、スマートカタログへの完全移行を発表しました。スマートカタログは、単純に従来の紙カタログをデジタル化するのではなく、写真の充実や動画の再生を可能にすることで、販売店スタッフが使いやすい商談ツールを目指すようになりました。それに伴い、これまでの撮影していたものから3DCGデータへと、素材制作プロセスの変更が必要になりました。

膨大な量のカタログに対応するために、仕組みづくりを。

トヨタ自動車(株)には国内で約50モデルの乗用車があります。そのカタログをすべてスマートカタログへ移行していく際に課題になったのは、品質担保です。複数の制作会社や担当者が関わりますが、誰でも同じくらいの品質で制作できるような仕組みづくりをしました。具体的には、素材やパーツごとに画角やライティングなどの見せ方の基準を決めることで、標準化してきました。また、制作会社に支給するCGデータのソフトウェアも統一し、品質の差が起きないようにしています。

紙資源の使用削減と、顧客体験の革新。

紙カタログからスマートカタログへの移行により、大幅な紙資源の使用削減を達成見込みです。それによるCO2排出削減効果は年間約1万トンに及ぶそうです。また、どのページをどれくらい閲覧したか、どの車と比較しているのか、などの販売店における商談情報を収集できるようにすることで、今後は、顧客の好みなどの傾向を把握し、スムーズにカタログに更新・反映することで、車を選ぶという顧客体験の向上にも役立てていきたいです。

04



岡村 卓真

シミュレーションエンジニアリング部

**VR×ドライビングシミュレーターを活用した
車両開発への貢献**

さらなるユーザー拡大のために、高性能なVRを導入。

トヨタ自動車(株)内のさまざまな部署に対して、ドライビングシミュレーターの活用提案やサポートを担当しています。その業務の一環として、さらなるユーザー拡大を目指すためにVRの導入を検討していました。しかし、開発当時の2022年頃に流通していた一般的なVRゴーグルは、まだまだ解像度が低く、実用性に乏しいと考えていました。そんな中、ヒトの目と同じくらいの高い解像度で見ることができる、産業用の高性能なVRゴーグルの存在を知り、採用することになりました。

VRとの連携で、従来のものよりも使いやすく。

従来のドライビングシミュレーターは、距離感がつかみづらく、映像酔いしてしまうこともあります。実際の開発では使いづらいという声がありました。そういった課題を、VRを導入することによって解決できました。しかし、開発を進めるにあたっては、VRに関する知見がほとんどない状態からのスタートだったため、社内のCG担当部署や協力会社に支援してもらいながら、VRとドライビングシミュレーターを連携させることができました。

高精度なバーチャル評価で、試作車や実車評価を削減。

VRを導入したドライビングシミュレーターによって、さらに高精度なバーチャル評価が可能になりました。それによって、試作車や実車評価の削減に貢献しています。また、安全に関する評価だけでなく、どのような機能があるとユーザーに喜んでもらえるのか、といった検証も低成本で行えるようになりました。今後も幅広い用途での活用を推進し、ユーザー数を拡大していくことで、VRドライビングシミュレーターのさらなる可能性を探求していきたいです。

05

ソリューション展開部

契約更新案内のペーパレス化

加藤 麻衣子 / 辻本 浩久



06

人事・品質システム部

トヨタグループ向け勤怠パッケージ展開

内藤 繁貴 / 横山 翔



コロナ禍のリモートワークで、手作業の業務を見直し。

これまでの契約更新案内は、紙で書類を送付し、お客様からの返送を確認するという、手作業の業務が発生していました。しかし、コロナ禍の影響で出社が難しくなり、お客様からもメールでのやり取りを希望する声が増加したことから、業務の改善が必要となっていました。そこで、会社のシステム改修のタイミングで、メールによる案内への切り替えを提案し、手作業で行なっていた業務をデジタル化するためのプロジェクトをスタートさせました。

社内システムによって、業務の平準化も実現。

プロジェクトでは、お客様へのメール送付と契約更新案内データの作成を自動化する仕組みを社内システムに構築しました。お客様は送付されたメール内のアンケートフォームに回答するだけで、契約更新手続きが完了します。また、お客様からの回答は担当者に通知されるとともに担当チーム全員にも共有されるため、作業の属人化や見落としを防ぎ、業務の平準化も実現しました。これにより、熟練度の高い従業員に限定されていた業務を、若手従業員にも任せることが可能になりました。

ペーパレス化で生まれた、さまざまなメリット。

今回のプロジェクトによって、ペーパレスによる資源削減、業務効率化による生産性向上、働き方改革による柔軟な勤務体制の実現など、さまざまなメリットが生まれました。現在は一部のお客様を対象としたテスト運用をしている段階ですが、将来的にはすべてのお客様を対象とした、約1,500件以上の本格運用を目指しています。目標達成のために、引き続き、社内外の協力を仰ぎながらプロジェクトを進めています。

勤怠管理における、トヨタグループ共通の課題解決を。

当社内の老朽化した勤怠管理システムのリニューアルを検討していたところ、同じタイミングでトヨタ車体(株)もシステムの見直しを検討していることを知りました。どちらもパッケージ化されたシステムの導入を検討していましたが、トヨタグループ特有の勤怠制度に対応するためには、不足する部分を追加でシステム構築する必要がありました。そこで、2社共同でシステムを構築し、共通機能として展開することで、トヨタグループ共通の課題解決につなげたいと考えました。

グループ展開を見据えて、機能の必要性と共通化を検討。

トヨタ車体(株)と協力しながら、どのような機能が必要か、どこまで共通化すれば他の会社でも使いやすいか、などをすり合わせし、システム構築を進めてきました。また、変化する働き方に対応するために、スマートフォンからの勤怠入力ができるようにしました。さらに、勤怠管理の効率化を目指して、社員自身が勤務状況を把握できる機能に加えて、上司が部下の勤務状況をまとめて確認できる機能を導入しました。

システムによって、ワークライフバランスや働きがいに貢献。

実装する機能のすり合わせでは、細かな仕様の違いが多く、共通化の作業は大変でしたが、無事にリニューアルすることができました。新しいシステムによって、勤怠が可視化され、より効率的に勤怠管理を行えるようになり、ワークライフバランスの整った働きがいのある職場づくりに貢献できると考えています。現在、グループ内の6社で導入が決まっていますが、今後はグループ会社のシステム更新時期に、選択肢の一つとして提案しつつ、新たなグループ共通の課題解決に向けた機能拡充も検討していきます。



07

SC本部 カスタマーサービスシステム部
サービスマニュアルにおける
編集プロセスのデジタル化

神谷 深心 / 大畠 幸恵



08

基盤部
トヨタファイナンス(株)OAパソコンの
Windows 11への移行

小川 敦司 / 戸松 宣文



修理・点検と編集をサポートする、デジタル化。

販売店のサービススタッフが車を修理・点検する際の説明書として、サービスマニュアルというものがあります。そのマニュアルは車毎、モデルの変更毎に作られるのですが、車両構造の複雑化・コンピューター化、車両生産・販売のグローバル化に伴い、情報量が増大し、紙でできた冊子を販売店内で持ち運ぶ、海外に送付するということが難しくなり、デジタル化されました。現在はデジタル化した情報を部品情報を元に車/モデル間で共通化するというチャレンジを行っています。

単純なデジタル化ではなく、内容や編集プロセスの平準化も。

このプロジェクトは、単純にデジタル化すればいい、というものではありませんでした。販売店のサービススタッフの目線で十分な情報を記載するには、現場の知見が必要です。また、マニュアルの編集には複数の部署や編集会社が関わっており、それぞれで異なる知見や業務特性をもっています。そういうことを踏まえて、マニュアルの内容や編集プロセスを平準化するとともに、デジタル化を推進してきました。

現状のニーズにも、新たなニーズにも、応えていく。

デジタル化によって、マニュアルの変更など、情報を素早く最新化し、サービススタッフにお届けすることができるようになり、サービススタッフの業務改善はもちろん、サービスマニュアルの編集を担当する編集会社の負担軽減、さらにはペーパーレス化による環境負荷の低減にも貢献できたと考えています。今後は情報量の見直し、共通化による情報の再利用をシステムで支援することでさらなる貢献を考えています。

サポート期限への対応のために、OSを更新。

トヨタファイナンス(株)の社員の方々が使用するパソコン、プリンター、グループウェア、サーバーなどの企画からシステム開発、運用保守まで一貫して対応しています。その中で、これまでトヨタファイナンス(株)で使用してきたWindows 10のサポート期限が迫り、OSの更新が必要になりました。そこで、OSの更新とともに、老朽化したパソコン本体の入れ替えをしました。

コストダウンを実現しながら、パソコン本体も入れ替え。

OSの更新とともにパソコン本体の入れ替えをしましたが、その際に、デスクトップパソコンは一部を再利用しながら、ノートパソコンはトヨタグループ内で大量に調達されている機種に入れ替えました。これらによって、パソコンだけでも大規模な更新だっただけに、大幅なコストダウンを実現できました。しかし、基幹システムの中には最新OSに対応していないものもあり、すべてを改修するには抜本的な対応が必要になるため、段階的な移行を進める長期的なプロジェクトとして進めています。

クライアントの相反する要望に、寄り添った対応を。

トヨタファイナンス(株)からは、「基幹業務で使用するPCの仕様変更は極力少なくしたい」けれど、「AIや機械学習などの新しい技術を取り入れ、働き方改革を行いたい」という、相反する要望がありました。金融という事業領域はシステムの安定稼働が最も重要なのですが、そこをクリアしつつ、要望にも寄り添った対応ができました。これからもプロジェクトは継続するため、要望とともに生産性やサステナビリティを踏まえて対応していきます。

09



島田 一輝



サプライチェーン事業推進部
仮想サーバーへの移行による
業務効率化と環境負荷低減の実現

サーバー更新のタイミングで、仮想サーバーを提案。

クライアントが使用しているサーバーが更新のタイミングであったため、更新を検討されていました。また、単純なサーバーの更新では、運用コスト増加や納期など、多くの課題がありました。そこで抜本的な解決策として、オンプレミスサーバー（クライアントが物理的に保有しているサーバー）に依存した構成から、当社が運用している仮想サーバーなどを活用した、柔軟で拡張性の高い構成への移行を提案しました。

迅速なリソース確保により、短納期での納品を実現。

プロジェクトの推進にあたって、スケジュールの立案からシステムの要件定義、ネットワーク環境の整備に至るまで、包括的に担当しました。その過程で、これから運用ルールの整備やガイドライン作成までを支援。移行までのスケジュールがとてもタイトだったのですが、必要な人員や仮想サーバーの容量といったリソースを迅速に確保したこと、スケジュールどおりの納品を実現することができました。

クライアントの満足度にも、環境配慮にも。

当社の仮想サーバーが環境に配慮したものということもあり、今回の仮想サーバーへの移行で、カーボンニュートラルにも貢献できたと考えています。また、クライアント社内での評価も高く、同社で開催された仕入先総会にて、このプロジェクトを表彰していただきました。ほかにも拠点が複数あるため、今後も満足してもらえるクオリティで対応していく予定です。

10



梅田 理恵



総務部
繊維のリサイクル活動

回収後の使い方まで配慮した、リサイクル活動。

トヨタシステムズでは、これまでにも社会貢献活動に取り組んできましたが、今回は会社発足から5周年を記念した新たな取り組みとして、繊維のリサイクル活動を行いました。自治体の行っている古着回収では、車の防音材や軍手に再生するマテリアルリサイクルが多く、用途が限定的でした。また、リユースにおいても、適切な場所に寄贈されなかつた場合、最終的にゴミになってしまったという社会問題がありました。そこで今回は、回収した繊維を再び繊維として循環させる「ケミカルリサイクル」に着目しました。

豊田通商(株)と協力し、想定以上の成果を上げる。

従業員の方々から、不要になったコットンとポリエステル100%の衣類を回収しました。豊田通商(株)の取り組みである「PATCHWORKS」と協働し、集めた繊維は(株)ナカノに寄贈しました。豊田通商(株)の先行事例では認知度の低さから十分な回収量に達しなかったという課題を聞いていたため、今回は回収の取り組みをわかりやすく伝えるために漫画というかたちで資料化し、従業員に配布。また、回収を衣替えの時期に、期間は長めに設定した結果、想定以上に回収することができました。

社会貢献活動を広げ、みんなに優しい会社へ。

「PATCHWORKS」では、現在のコットンとポリエステルに加え、ナイロンや混紡繊維のリサイクルも視野に入っています。今後も取り組みが浸透していくように、一緒に活動をつづけていきます。また、独自の取り組みとしては、「TS MOTTAINAI ACTION」という名前で、衣類だけでなく、古本や食品などを集めて、ゴミになるものを削減する取り組みをつづけていきます。活動内容は社内SNSでも発信しています。多くの方に賛同してもらえると嬉しいです。

白川郷茅場保全活動

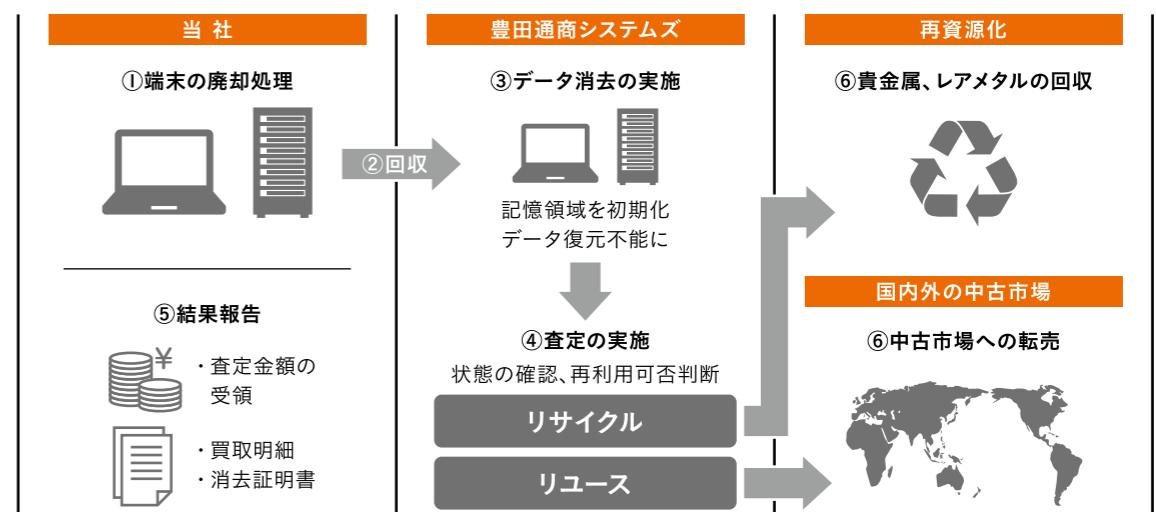
2023年10月21日(土)、従業員とその家族約100名により、トヨタ白川郷自然学校で茅刈り体験を実施しました。これまで環境保護活動は年に2回海岸清掃を行っていましたが、2023年は創立5周年を記念したイベントの一環として世界遺産・白川郷で茅刈りを行いました。



白川郷では人手不足により活用しきれていない茅場が課題になっています。また残された茅場を活用するためには、継続した整備が必要です。茅を刈ることで、茅葺き屋根に必要な茅の確保に加え、茅場の保全にもつながり、世界遺産にも登録されている白川郷合掌造り集落や、それに関わる文化の保存の一助になります。今回の活動を通して持続可能な社会のために貢献できれば幸いです。

当社は豊田通商システムズ(株)のサービスを活用し、IT機器のリユース/リサイクルを実施しています。今後も資源の有効活用に取り組んでまいります。

IT機器リユース/リサイクルの流れ



(1) 削減実績

約**9.8t** の廃棄物発生を削減

項目	台数	重量
総量	2,760台	9,797kg
リユース	1,342台	1,779kg
リサイクル	1,418台	8,050kg

(2) 再資源化率

約**96.6%** の資源利用

項目	数量
リサイクル重量	8,050kg
再資源化重量	7,777kg
再資源化率	96.6%

(3) 雇用創出

約**26.4**人日分 の雇用創出に貢献

項目	数量
リサイクル重量	8,050kg
解体業務時間	12,650分
雇用創出人数	26.4人日

(4) 海外流通台数

約**559**台 が途上国でリユース

項目	数量
リユース台数	1,342台
海外出荷台数	559台
海外出荷台数率	41.7%

※取扱対象物件はノートPC、デスクトップPC、液晶モニタ、サーバー、サーフェーステーション、NW機器(ルーター、スイッチ)スマートフォン、タブレットのIT機器に限定しています。
※取扱対象物件の重量は、ACアダプターを含めた豊田通商システムズ(株)算定概算重量となります。



未来を生きる若者の視点による社会課題への取り組みを、広く支援する必要性を強く感じ、本アワードを開催しました。モビリティ、IT、SDGsのカテゴリの中から未来に重要だと考える課題を選び、若者の感性を活かした、従来にない発想と独自の視点で、解決策を多数提案いただきました。

主 催：わたしのミライKAIZENアワード実行委員会
協 力：国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学・株式会社トヨタシステムズ
後 援：中日新聞社

審査委員長：新井 紀子氏
国立情報学研究所 社会共有知研究センター センター長・教授
一般社団法人教育のための科学研究所 代表理事・所長

審査委員：武田 一哉氏
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学 副総長
(情報システム(DU)・情報系戦略・スタートアップ担当)

審査委員：河口 信夫氏
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学 未来社会創造機構 教授
審査委員：北沢 宏明
株式会社トヨタシステムズ 代表取締役社長

審査委員：川添 浩史
株式会社トヨタシステムズ 上級Executive Adviser

最優秀賞

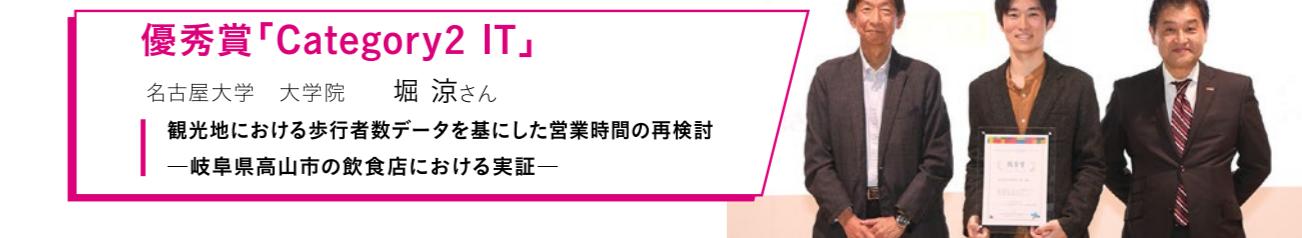
名古屋大学 大学院 小濱 大輝さん

設備改修工事における労働生産性向上
—画像処理技術を用いた天井図面作成補助—



優秀賞「Category1 モビリティ」

名古屋大学 大学院 浅井 悠佑さん
効率と安全を考慮したコストマップを用いた人と協調する倉庫内配送ロボットナビゲーション



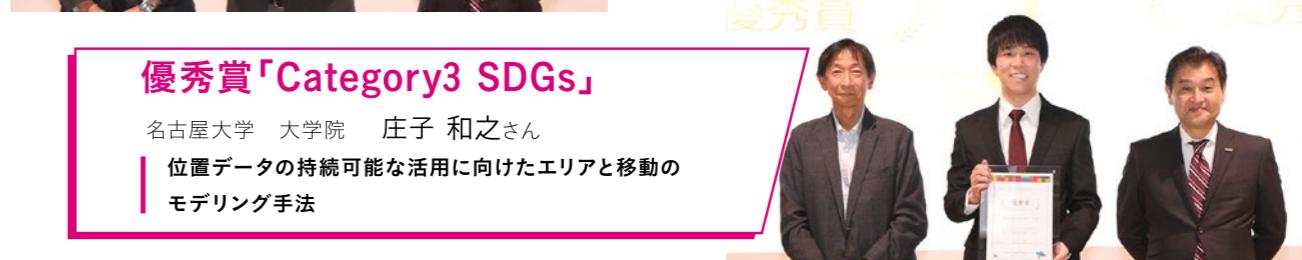
優秀賞「Category2 IT」

名古屋大学 大学院 堀 涼さん
観光地における歩行者数データを基にした営業時間の再検討
—岐阜県高山市の飲食店における実証—



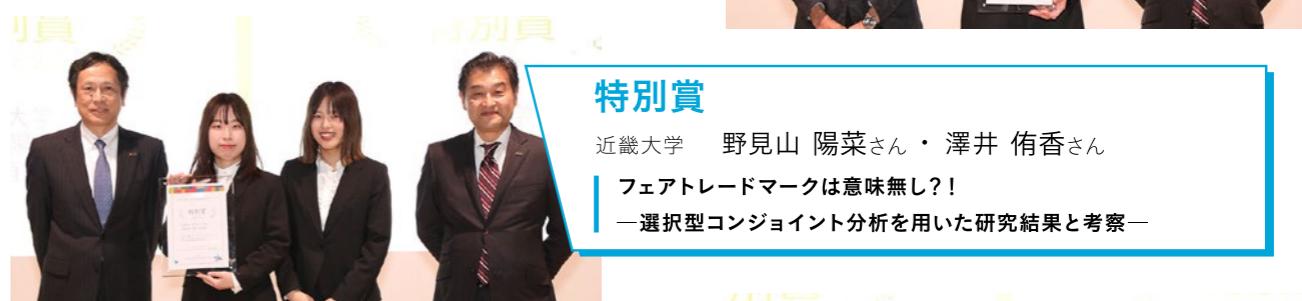
優秀賞「Category3 SDGs」

新潟県立大学 山崎 壮樹さん
中古トラクタの国際リユースに伴った現状と諸課題
—多変量解析を用いた需要把握の試み—



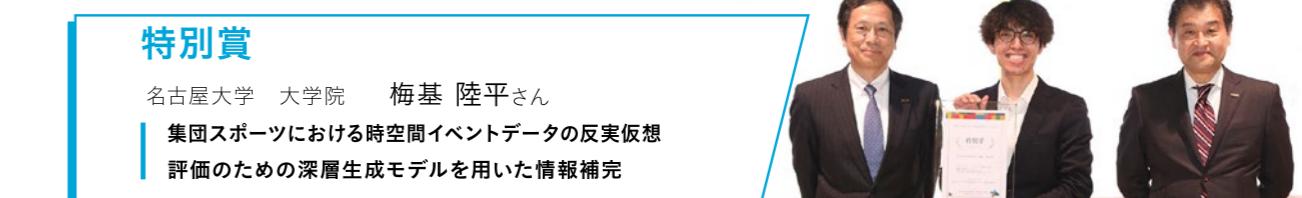
優秀賞「Category3 SDGs」

名古屋大学 大学院 庄子 和之さん
位置データの持続可能な活用に向けたエリアと移動のモデリング手法



特別賞

近畿大学 野見山 陽菜さん・澤井 侑香さん
フェアトレードマークは意味無し?!
—選択型コンジョイント分析を用いた研究結果と考察—



特別賞

名古屋大学 大学院 梅基 陸平さん
集団スポーツにおける時空間イベントデータの反実仮想評価のための深層生成モデルを用いた情報補完

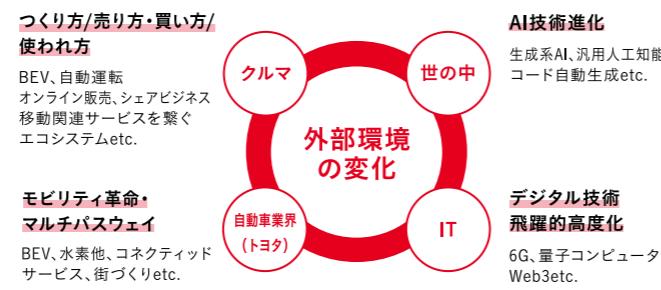


特別賞

名古屋大学 大学院 山田 和宏さん
組織的な活動における人の動きの特性の相性の分析
—バスケットボールにおけるシュートスタイルの組み合わせの効果の推定—

Vision2030

モビリティ業界を取り巻く環境は大きく変化しています。劇的ともいえる変化を前に、トヨタグループは大きく変化しなければなりません。当社はトヨタグループのさらなる成長と、その先にある社会への価値創造を目指し、Vision2030を策定しました。



2030年のありたい姿 「モビリティ変革へのITイニシアティブ企業」

ITのチカラでトヨタグループのビジネス変革を支え、モビリティカンパニー化を目指す自動車業界において価値を提供できる企業となることを目指します。

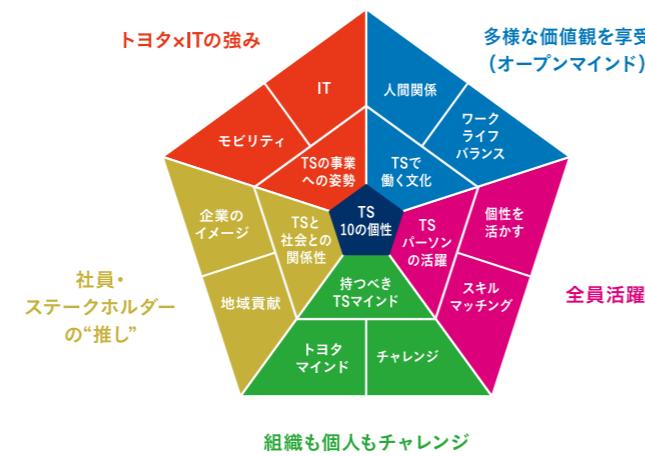
磨き抜け。挑み続けろ。

私たちはモビリティ業界に押し寄せる大きな変化の波を絶好の機会ととらえます。世界のトップ自動車メーカーであるトヨタとの仕事で培ってきたIT技術を磨き抜き、その技術でモビリティ業界、そして社会全体の課題解決に挑み続けます。



トヨタシステムズだから働き続けたい

Vision2030を実現する源となるのはトヨタシステムズで働くすべての従業員です。従業員一人ひとりが「トヨタシステムズだから働き続けたい」と思える会社であることが、Vision2030の実現の要であり、労使一体でこれに取り組んでいきます。



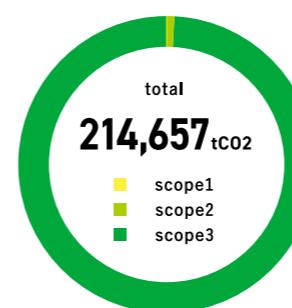
カーボンニュートラルへの取り組み

当社は日本国政府、トヨタ自動車(株)が掲げる2050年カーボンニュートラル実現に向けて取り組んでいます。

CO2排出量実績

2023年度のCO2排出量実績は下記の通りでした。

■ 2023年度CO2総排出量



■ 2023年度月別CO2排出量



省エネルギーへの取り組み

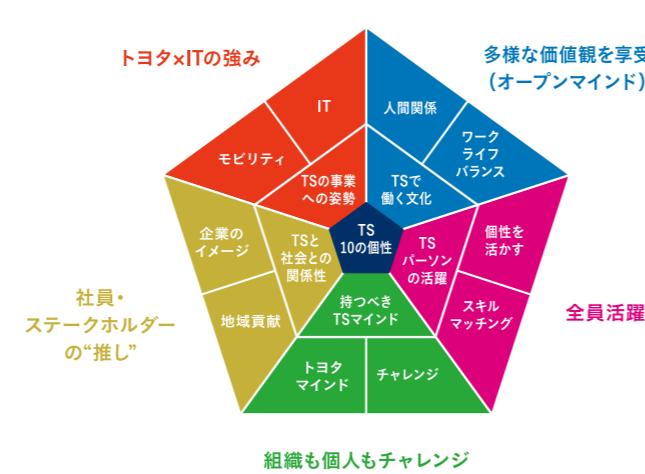
磨き抜け。挑み続けろ。

私たちはモビリティ業界に押し寄せる大きな変化の波を絶好の機会ととらえます。世界のトップ自動車メーカーであるトヨタとの仕事で培ってきたIT技術を磨き抜き、その技術でモビリティ業界、そして社会全体の課題解決に挑み続けます。



トヨタシステムズだから働き続けたい

Vision2030を実現する源となるのはトヨタシステムズで働くすべての従業員です。従業員一人ひとりが「トヨタシステムズだから働き続けたい」と思える会社であることが、Vision2030の実現の要であり、労使一体でこれに取り組んでいきます。



オフィス照明の省エネ化

各オフィスの照明にLED照明を採用しているほか、休憩時間の自動消灯・点灯をしています。



社有車台数の見直し・エコカーの導入

出張移動時のCO2排出量削減のため、公共交通機関利用の推奨や社有車保有台数の見直しを行っています。また社有車にはハイブリッド車両を優先的に導入しています。





発行責任者 酒井 誠二
発行部署 総務部
発行 2024年9月